

トップメッセージ

「ICTの発展をお客様価値向上へ結びつけるイノベーション企業グループ」を目指して活動してまいります

株主の皆様には、平素格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

当社グループは、中期方針である「ICTの発展をお客様価値向上へ結びつけるイノベーション企業グループ」を目指し、付加価値向上に取り組んでまいりました。さらに、お客様ニーズに的確に応えるため、積極的な人材採用やビジネスパートナーとの連携を強化し体制整備を進めてまいりました。

システム構築分野では、需要が高く、当社がこれまで培ってきた技術力及び対応力と蓄積した先進ノウハウを活用できる分野を中心に、人材採用及び育成や配置転換を積極的に行ってまいりました。具体的には、組込系及び制御系技術の利用拡大が進む自動車・FA（工作機械）等の機械制御分野、通信技術や先進ICT技術を駆使する社会インフラ分野、ICTの発展に伴い拡大・革新を続けるネットビジネス分野に加え、教育・医療・公共分野等で事業を拡大してまいりました。

プロダクト・サービス分野では、企業や官公庁でのタブレット端末導入が急速に進む中、ペーパーレス会議等での導入が加速しているスマートドキュメントサービス「moreNOTE」や、学校への教育ICT導入促進を図る総合教育ソリューション「みらいスクールステーション」、自治体との介護予防事業等における連携強化を行っている「コミュニケーションロボット“PALRO”（パルロ）」については、メディア活用を含めて、積極的なプロモーション活動も進めてまいりました。また、グループ一体となり、サイバーコム株式会社のコールセンター向けソフトフォン「Smart CC-Phone（スマートシーシーフォン）」、株式会社ヴィンクスのスマートデバイスを活用した次世代型店舗システム「CoMobiS（コモビス）」等、クラウドサービスビジネスの強化も図ってまいりました。ライセンスビジネスにおきましては、各ベンダーとの連携強化を進め、引き続き拡大してまいりました。その他、「新しい働き方」を研究するワーク・ライフ研究室」というコンセプトのもと、当社のサービスや製品で実現する次世代ワークスタイルの提案活動も行っていました。

今後につきましては、既存事業分野の付加価値を一段と高めつつ、さらなる人員の強化を進め、当社が保有するICTに関する多くのノウハウを活用し、社会のニーズに応えることで、持続的な成長と付加価値向上を実現し、「ICTの発展をお客様価値向上へ結びつけるイノベーション企業グループ」を目指して活動してまいります。

株主の皆様におかれましては、これまでと変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役 会長執行役員

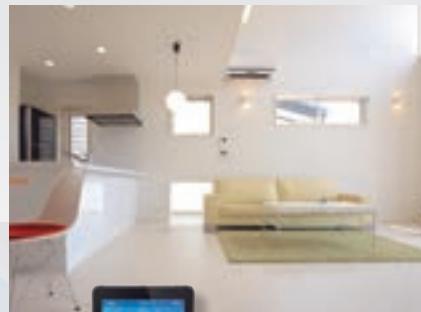
代表取締役 社長執行役員

野澤 宏

坂下 智保

FUJISOFT×ICT
ビジョン

FUJISOFTは 新価値創造カンパニー



CLOUD

CLOUD
COMPUTING

MOBILE

あらゆる業種・業態に 対応するクラウドサービス

国内自社データセンター4拠点を軸にプライベートなクラウド基盤を提供するIaaS、及びSaaSの「FSCloud」シリーズを業種・業態を問わず展開しています。また、4大パブリッククラウド（AWS、Google、Salesforce、Microsoft）などと連携し、プライベートからパブリックまでお客様のニーズに合わせた最適なサービスをご提案いたします。

いつでも、どこでも、
つながる世界

さまざまなデバイスで、
「いつでも、どこでも、つながる世界」
を実現

デジタル家電、モバイル、自動車、FA・OAなどあらゆる機器（デバイス）をクラウドと連携し、「いつでも、どこでも、つながる」を実現する世界を支えています。

例えば、スマートフォンやタブレットで専用サーバーにアップロードしたドキュメントをいつでも、どこでも、手軽に安全に閲覧できるサービス「moreNOTE」は、「モバイル×クラウド」の融合でお客様のワークスタイルの変革をご提案いたします。

ヒューマノイド型のロボット開発を 実現する先進の知能化技術

コミュニケーションロボット「PALRO（パルロ）」は、厚生労働省が定める介護予防機能の搭載モデルを高齢者福祉施設に販売開始。PALRO単独で介護レクリエーションを行うエンターテインメント機能を追加搭載し、更なる市場の展開を見込んでいます。また、あらゆるエレクトロニクス製品にロボットテクノロジー（知能化技術）を組み込むことができるソフトウェア・プラットフォームをご提案いたします。

ROBOT
TECHNOLOGY



基本方針

ICTの発展をお客様価値向上へ結びつけるイノベーション企業グループ

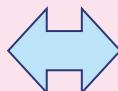
お客様のさらなる「付加価値の向上」「新たなビジネスの創出」「競争優位性の強化」に繋げる

中期目標

高付加価値事業構造への挑戦と創造

付加価値の向上

現場力強化（体制整備）
マーケット創出（含 海外）
販管コスト適正化



プロダクト化・サービス化推進

クラウド (C) (含：ネット関連)
ロボットテクノロジー (R)
モバイル (M) (含：様々なデバイス)

<基本戦略>

受託ビジネス基盤の強化

プライム化の推進

プロダクト化の推進

グローバル化の推進

グループ力の強化

グローバル競争時代を勝ち抜くビジネスを支える業務・制御システム

ネット時代に対応する先進ソフトウェア・ハードウェア

クラウドコンピューティングやロボットテクノロジーをはじめとした技術やサービス、これまで培ってきたモバイルの技術とソリューションを融合させることにより、新たな価値あるモノづくりをご提案いたします。

さらにグローバル展開とグループシナジーを組み合わせ、流通、金融、製造など多様な業種に向けて、より高付加価値なプロダクトやサービスをご提供いたします。

コミュニケーションロボット

PALRO® Business Series

超高齢社会に PALROができること

超高齢社会を迎え、要介護者、要支援者の数は着実に増えています。厚生労働省の調査では、65歳以上の高齢者のうち、認知症の方は15%、認知症「予備軍」と言われる軽度認知障害の方を含めると28%という状況です。これは高齢者のうち4人に1人が該当する計算になります。

そうしたなか、健康長寿を目指すべく、自身の健康に高い関心を寄せる高齢者の方が増えていること、医療・介護財政の問題からも、介護予防の重要性がより高まっています。とはいえ、限られた人員でのサービス、慢性的に忙しい現場にあつては、理想とするケアを満足にできないということもあるでしょう。

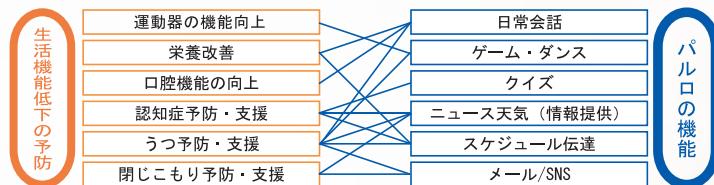
PALROは、さまざまな場面で、介護予防、生活機能の維持をお手伝いし、ご利用者さまの健康増進と自己実現、生きがいづくりをサポートします。

介護予防支援6つの項目をサポート

PALROとのコミュニケーションは、介護予防の6つの柱に対応しています。たとえば、小さなロボットが話しかけてくれるという新鮮な喜びが、部屋から出るきっかけになったり、PALROからその日のイベントや献立を聞いて「参加してみようかな」「食事、楽しみだな」と思ったり。

また、PALROがいることでご利用者さま同士の会話の促進にも期待ができます。

PALROは、ご利用者さまの明るく楽しい、健康で豊かな生活を応援します。



高齢者の明るく楽しく、健康で豊かな生活を応援



TOPICS

藤沢市と富士ソフトが「介護予防等事業における連携に関する協定」を締結 ～コミュニケーションロボット「PALRO（パルロ）」を活用した研究、実証で連携～

神奈川県藤沢市（鈴木恒夫市長）と当社は、当社が開発したコミュニケーションロボットPALRO（パルロ）を活用した介護予防事業等における連携を強化し、藤沢市の市民生活の豊かさの向上や藤沢市の持続的発展に寄与していくことを目的とする「介護予防等事業における連携に関する協定」を平成26年10月2日（木）に締結しました。

最初の具体的な取組みとして、当社が開発したPALROを活用した「転倒予防・体力向上運動プログラム」について、平成26年10月より、実際に藤沢市内の地域在宅高齢者を対象として、藤沢市内の病院で運動指導を実施し、このプログラムの内容と指導方法の運動機能への効果を試行検証しています。このPALROを活用した運動プログラムの試行検証は、神奈川県のさがみロボット産業特区の平成26年度の重点プロジェクトに指定されています。



タブレットをもっとビジネスに。

ビジネスは場所を選ばない

moreNOTE[®]

moreNOTE (モアノート) は、タブレットやスマートフォンでドキュメントや動画・画像などをいつでもどこでも手軽に閲覧・共有・編集できるサービスです。出張先で、本社で、海外で。moreNOTEは場所を選ばず、さまざまなビジネスシーンで活用されています。

平成27年3月
待望の新機能リリース

①カレンダー連携



②Office文書編集



③Windows 7 対応



④Active Directory連携

学校への教育ICT導入促進と環境改善を図る総合教育ソリューション

みらいスクールステーション[®]

校内LANを介して教材などのコンテンツや音楽、ビデオカメラで撮影した映像を各教室のデジタルテレビに配信。メディアボックスとリモコンを使用して視聴するシステムです。平成21年のスクールニューディール構想により、全国の小中学校に30万台導入されたデジタルテレビの活用促進を目的に開発されました。

学校のテレビやプロジェクター、そしてタブレット端末をさらにかしこく、もっと便利なツールへと進化させるのが、総合教育ソリューション「みらいスクールステーション」です。

教育現場の環境改善、そして向上を目指して、ニーズに合わせたさまざまな教育ツールをご提案します。

職員室で



教室で



- VOD (ビデオ・オン・デマンド)
- みらいボード (電子黒板機能)
- 電子掲示板機能
- タブレットによる授業支援機能 (授業進行)

- 緊急災害情報連動 (地震速報・津波警報)
- 電子掲示板機能
- VOD (ビデオ・オン・デマンド)
- タブレットによる授業支援機能 (授業準備)
- 校務情報閲覧サービス
- LMS(e-learning)

日本の職場を変える！

「ワーク・ライフ研究室」

人口減少による働き手不足や、多様な働き方を求めるビジネスワーカーの増加により今「ワークスタイル変革」が注目を集めています。生産性を落とすことなく労働力を維持するため、社員のライフスタイルをよりよくするなどワークスタイル変革のビジョンや目的は企業においても様々です。そこで富士ソフトでは、「ワーク」と「ライフ」の両面から、企業が追求すべき最善の働き方とは何かについて研究を開始。先進的に取り組む企業の有識者の声や事例をご紹介しながら研究結果を発表してまいります。



LIFE

WORK

なぜ今、ワーク&ライフなのか

» next future

富士ソフトは考えました。

これからの世界は、ひとりひとりのライフスタイルを尊重して、場所や時間に縛られることなく、シームレスに仕事ができるようになる。

タブレットやスマートフォン、そしてクラウド環境が、その世界を実現できるツールであると。

昨今、流行り言葉になっている「ワークスタイル革命」は、仕事のやり方を変えるだけではなく、人々のワーク・ライフ・バランスを、より良く導びかねなくてはならない。

そのために、富士ソフトができること

PCの登場、Windows、インターネット、クラウド、そして、タブレット。ICTの歴史すべてを経験し、ワークスタイルを追求してきた富士ソフト。各社のクラウドとの親和性の高い富士ソフトのソリューション。それらをすべて結集して、

仕事 (WORK) のため、人々の幸せ (LIFE) のために、何ができるか

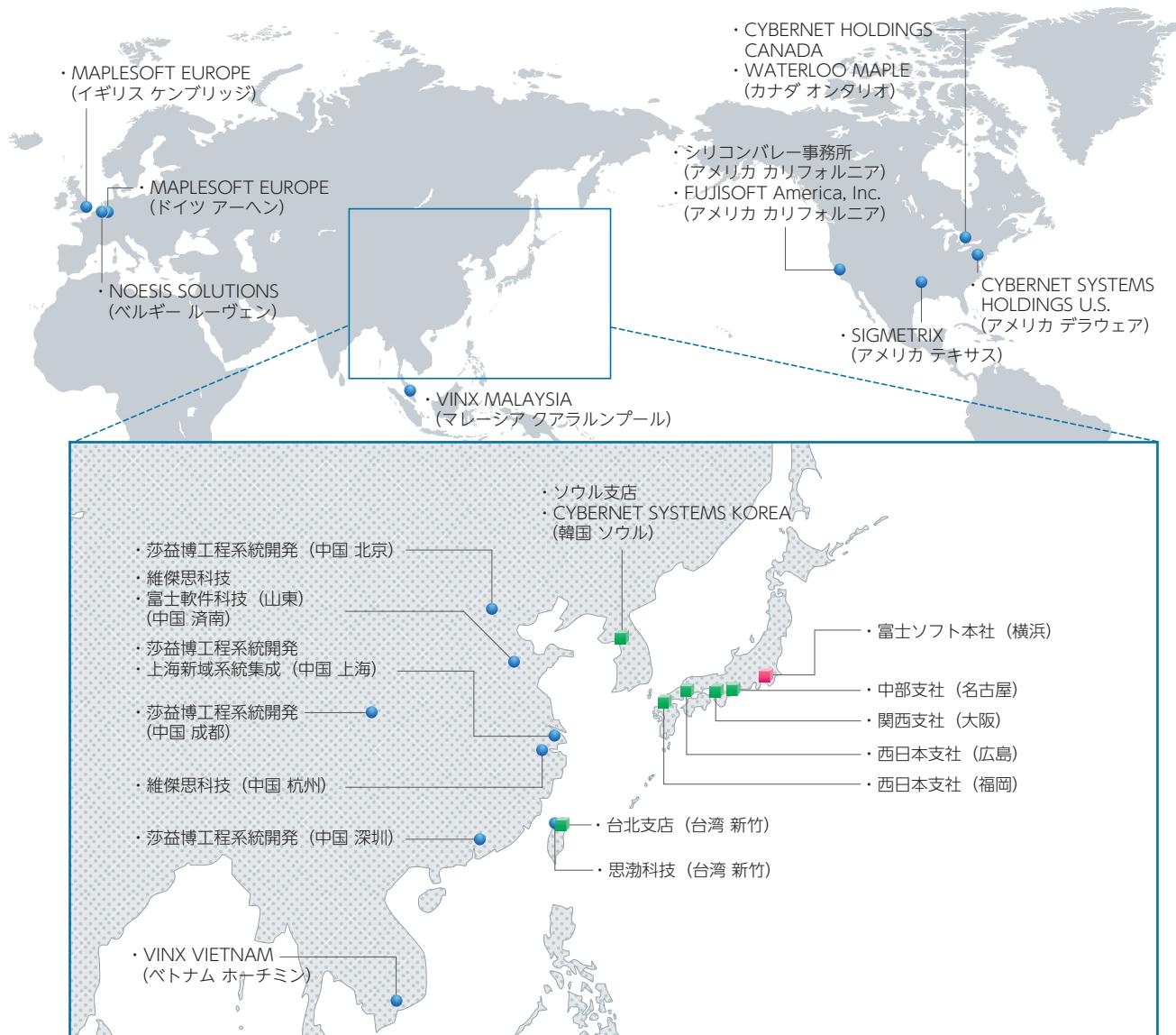
それを研究するために、

ワーク・ライフ研究室

を設立しました。

グローバルネットワーク

■ 富士ソフト本社 ■ 富士ソフト支社／支店 ● 富士ソフトグループ企業



招集と通知

株主総会
参考書類

添付書類

事業報告

連結計算書類

計算書類

監査報告書

株主通信
(一)参考)

富士ソフトのCSR

富士ソフトグループは、「ICTの発展をお客様価値向上へ結びつけるイノベーション企業グループ」を目指して活動していきます。

基本理念

- もっと社会に役立つ
- もっとお客様に喜んでいただける
- もっと地球に優しい企業グループ
- そして「ゆとりとやりがい」



富士ソフト本社ビルエントランス モザイク壁画「不二」

障がい者の就労拡大に向けた支援活動

富士ソフトグループの特例子会社である富士ソフト企画株式会社は、障がい者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく障害福祉サービス事業「就労移行支援事業」の事業者として平成26年11月1日に認可され、12月1日より事業開始いたしました。同社経営理念の「自立と貢献」を基本コンセプトとして、障がい者の自立を促し、一人でも多くの就労者を輩出したいという思いを込めて、「就職予備校」とネーミングをつけました。

富士ソフト企画株式会社では、長年精神・発達障がいを持つ方を対象とした職業訓練を実施してまいりました。今回、この就職予備校では、この職業訓練をベースとしたものを展開してまいります。



就
職
予
備
校

就労移行支援事業所・富士ソフト企画株式会社



自然災害時の被災地復興支援 過疎地域などの地方創生にむけた支援活動

当社社員は、NPO法人「IT工房ひのき」主催イベントを通して、様々なボランティア活動に積極的に参加しています。東日本大震災の被災地のみならず、日本各地で起きる災害でのボランティア、限界集落などでの古民家再生ボランティアなど、その活動の範囲を広げています。

平成26年1月から12月の主な取組み

- 福島県大沼郡の昭和村・三島町での雪かきボランティア（2月）
- 豪雨による土砂災害が発生した広島県安佐南区での土砂災害ボランティア（8月）
- 岩手県宮古市のパソコン教室ボランティア（12月）



パソコン教室の様子

第1回 世界大会 INTERNATIONAL ROBOT SUMO TOURNAMENT 2014 開催

「第26回全日本ロボット相撲全国大会」と同時開催

平成26年12月、国技館（東京都墨田区）にて、当社主催の「第26回全日本ロボット相撲全国大会」及び「INTERNATIONAL ROBOT SUMO TOURNAMENT 2014」を開催いたしました。

「全日本ロボット相撲全国大会」は、当社が主催する「全日本ロボット相撲大会」の「全日本の部」の全国大会です。26回目を迎える今大会は、全国9ヶ所で行われた地区大会の「全日本の部」に参加した993台のロボットの中から、見事勝ち上がった123名の選手が、自慢のロボット64台とともに相撲の聖地・国技館にて“横綱”の称号をかけて熱い戦いを繰り広げました。

また、前年大会だったINTERNATIONAL ROBOT SUMO TOURNAMENTが正式大会になり、世界9ヶ国（ラトビア・トルコ・メキシコ・ブラジル・ポーランド・スペイン・ルーマニア・コロンビア・モンゴル）のロボット力士と日本代表による世界一を争う世界大会をトーナメント形式で開催し、自立型はラトビア、ラジコン型は日本が、栄えある世界第1位の称号を手に入れました。

今年で26年、途絶えることなく続けてきた全日本ロボット相撲全国大会は、「ロボット作りを通して『ものづくり』の楽しさを知ってもらう場を提供する」ことを目的に開催しております。

今後もロボット相撲大会を通じて、更に多くの世界中の皆様にも「ものづくり」の楽しさを知って頂き、またロボットテクノロジーを学ばせかけとして本大会が末永く続けられるよう、尽力して参ります。



大会ポスター



世界9ヶ国から選手が参加した「INTERNATIONAL ROBOT SUMO TOURNAMENT 2014」の様子

※moreNOTE、PALROなどの名称は富士ソフトの日本及びその他の国における登録商標です。
その他すべての名称は、それぞれ各社が商標として使用している場合があります。